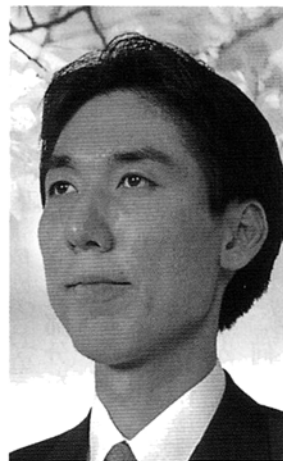


城内 実の視点！ 時代を考察する(12)

—— 食の安全と明日の日本農業 ——



前衆議院議員・拓殖大学客員教授 **城内 実**

今年に入って毒入りの中国産の冷凍餃子がテレビや新聞紙上で話題になった。被害を受けた方々は本当に気の毒である。私ももし自分の家族がこんな目にあったらと思うと怒りがこみ上げてくる。中毒を起こして苦しんだ方々のためにもこのことを日本国民全体に対する将来に向けての一つの教訓にしたい。

今やわれわれの周りのあらゆる食品の中に人体に有毒な物質が使用されている。化学調味料、合成保存料、合成着色料などなど。読者の皆さんも私と同じように『買ってはいけない！』シリーズ(週刊金曜日)刊)を読んで愕然としたことがあるのではないだろうか。

昔こんな報道が週刊誌か何かにあったことを記憶している。ある一人暮らしの方が亡くなって死後一週間後くらいに死体で発見された。ところが、死体はほとんど腐っていないかったそうである。なぜならその方は保存料がたくさん入っている食品ばかり食べていたからだ。私もちよくちよく忙しい時にコンビニのお弁当やおにぎりを買って食べる。が、もしこの情報が本当だとすると背筋がぞつとする。

中国産のものが全て悪いというわけではない。中には良いものもたくさんある。私の周りにも中国産の製品がたくさんある。しかし、「値段が

安ければ何でも良い、日本産よりも安い中国産のものがお得」という風潮はいかなるものかと思う。

私の故郷の浜松市は農産物生産高では日本有数の地域である。城内家の本家も浜松県立農経高校を卒業し、農業を営んでいる。ご先祖様が苦勞して営んできた農業の後継者がどんどん減ってきている。目先のマネーゲームに狂奔している人があまりにも多い時代だからこそ、私はあえて額に汗してがんばって農業に携わっている方々をなんとかこれまでの日本社会の脇役から主役に戻したいと思っている。

だから、作り手の顔の見える農作物を多少高くても安心安全のために買うべきではないだろうか。地産地消を推進しよう。お酒もお味噌もお醤油も大工場で作った大量生産品も良いが、何百年と続く商店が経営しているのれんも大切にしたい。私の祖父も浜松の浅田町で「城内商店」という消火器、農機具、塗料を販売する本場に小さな商店を終戦直後から営んでおり、祖母の実家も浅田町の隣の海老塚町で「磯浜」という小さな菓子屋の店を開いていた。地元のみなさんのごひいきにあずかったからこそ、祖父はお祭りなどには積極的に寄付をし、また自治会長として地域のみなさんが健康で平和に暮

らせるように無償で奉仕した。

江戸時代は、「土農工商」と言われていたが、今では、「商工農土」又は「商工土農」である。「農」がないがしろにされている。つい最近まで「商」の代表格は竹中平蔵元大臣や武部勤元自民党幹事長が絶賛した「ホリエモンや村上ファンド」であり、さらに日本の金融機関（サラ金なども含む）であった。また、「工」の代表は経団連に加盟している一部の大企業である。

「士」は官僚または公務員である。やたらと国民から「税金泥棒」と叩かれている。確かに官僚の無駄使いはおおいになくすべきであると思う。しかし、官僚以上に悪いのは政治家ではないだろうか。世界約二〇〇国の中で最も特権を与えられている国会議員は日本の国会議員くらいである。さまざまな特権があるだけでなく、今やほとんどが世襲である。今や二世議員は珍しくなく、このままいくとルパン三世やルイ十四世もびつくりの四世五世、十何世議員が出てくるようになるであろう。

私が郵政関係合同部会などの会合で本当に唾然としたのは、「郵政の特定局長は世襲ばかりだからけしからん。既得権にメスを入れてカイカクしなければならぬのだ！」と小泉・竹中構造カイカク路線礼賛の大演説をぶっていた国会

議員が数名いた。しかし、その大演説をした方は二世議員であった。国民をなめているのかと私は思った。話を農業に戻そう。今回の中国産餃子事件が起こったのも、もとをただせば日本の食糧自給率（カロリーベース）が先進国では最低の三八%であることによる。戦後の日本が手取り早くお金になるような商売をして、泥と汗にまみれて働いている農業者をないがしろにしたから不幸な出来事が起きたのである。

外国のものが良ければどんどん買ってかまわない。しかし、もつとわれわれの同胞が生産しているものを尊重し、大切にすべきである。

それでは、食糧自給率を高めるにはどうするか。日本の農業者の後継者を育成するには、また安全な食糧を確保するにはどうすれば良いか。その方策の一つとして私は次のように考える。年間七、三〇〇億円のODA、すなわち発展途上国に対する経済援助は、無償資金協力（おカネをただであげる）、有償資金協力（おカネを貸す）、技術協力を行うが、それに加えて日本の農産物ないしその加工品を無償で提供するのである。

かつて外務省に在籍していたから分かるのであるが、某発展途上国に無償で資金を提供しても、その国の為政者と家族、官僚におカネが流れたりして、末端の飢餓に苦しむ市民にはま

わってこないのである。それどころか、食糧を買うはずのおカネがアメリカや中国、フランスの武器を買うおカネにまわったりする。そうであるならば、日本政府が農業者の方々から農産物を買取りそれがある時は加工して世界の飢えている人のために使えば良い。夢物語かもしれないが、日本を農業大国にし、緑豊かな国土を守りたい。

プロフィール

城内 実（きうち みのる）

昭和四〇年 四月一九日生まれ

平成元年 東京大学教養学部国際関係論分科を卒業し、外務省に入省

平成二年 在ドイツ日本国大使館勤務

平成九年 天皇陛下、総理等のドイツ語通訳官

平成一四年 外務省を退官し、公募に応募

平成一五年 衆議院議員初当選（無所属）

平成一六年 党改革実行本部幹事

平成一七年 農林水産委員会委員、環境委員会委員、郵政民営化特別委員会委員

平成一七年 第四十四回衆議院選挙にて七四八票差

で惜敗

平成一八年 拓殖大学客員教授

城内 実 ホームページアドレス

<http://www.m-kiuchi.com/>